

ご卒業・ご修了おめでとうございます

学校長 柴田 義晴



今年一年間を振り返りますと、4月には可愛い一年生をみんなで迎え、新しい友達と出会い、新たな志を持って出発しました。5月・6月には各学年で遠足や移動教室に出かけみんな仲良く学習活動に励み、7月には猛暑の中、水泳授業に励み、5,6年生は臨海水泳に出かけました。9月は、久しぶりに会った友達とともに早速運動会の練習に始まり、きくまつり、多峯主山の全校ハイキング、きくの子展で締めくくった2学期でした。3学期は、大雪や寒波による体調への影響に加え、インフルエンザによる学級閉鎖もありましたが、みんな頑張っ乗り越えお別れ音楽会を無事成功させました。あっという間に過ぎ去った3学期でした。お陰さまで、恙なく総じて成功裏に一年の学校運営に努めることができました。これは、一重に保護者の皆さまのご理解とご協力のお陰と深く感謝申し上げます。

ところで、お別れ音楽会の折、「子ども達の歌声や演奏は、とても冷たい風が吹いて寒い日ですが、春を呼ぶような暖かく陽気な気分にしてくれました」と申し上げたように、その後少しずつ暖かくなり啓蟄を過ぎたころから一気に春めいて、あたかも子ども達の卒業や修了を祝ってくれるかのように樹木の新芽も顔を出し始めました。その中、卒業証書授与式が滞りなく執り行われ、卒業生にとってこの日は小学校6年間の「自分の成長発表会」でもあったと思います。自分の名前を呼ばれ、大きく張りのある声で返事をし、立ち上がって壇上に向かい私の前へ、その姿は凛々しく、可愛らしく、たくましく、そしてしっかりと卒業証書を受け取ってくれました。握る手は、それぞれの思いを伝えてくれました。緊張で冷たい手、乾いた手、暖かい手、しっとりした手…、控え目に、あるいは力強く、それぞれ感情のこもった手でしっかりと握手を交わすことができました。

保護者の皆さまには、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。この日までには、さぞご苦労もあったことでしょう。しかし、今日のお子様の姿にその苦労も忘れ、お慶び一色のことと思います。心よりお祝い申し上げます。教職員は、喜びと寂しさが交錯する一日でしたが、卒業していく卒業生の後ろ姿を見送りながら、今後の活躍に大きな期待を寄せていました。

さて、在校児童は、やさしく、時にきびしく導いてくれた卒業生の後ろ姿を見て、いつの日かの自分に重ね合わせながら、卒業生への感謝、惜別、誇りの念を抱いて送り出してくれました。在校生から頂いた今年の年賀状には「6年生のように、みんなを引っ張っていくリーダーになります」「今度は…年生になるけど、頑張ります」と宣言してくれ、とてもうれしく頼もしく思っております。私も各教室に出向いて子ども達の授業風景を見ると、1年生から4年生までの児童も、2月に入ったころから進級学年への意識、意欲、期待を胸に抱き、一段と心の成長を感じとることができました。在校生にとって修了式は進級学年へ向かう大切な節目になります。春休みには「にがて」「不得意」を補っておくと進級学年への大きな力となります。しかし、春休みは大きな節目でもあり、この節目にご家庭でそれぞれのお楽しみを計画されることもよいのではないのでしょうか。自動車のハンドルのように、「遊び」もまた人を大きくしてくれるものです。

最後になりましたが、本年度PTA役員の皆さまには一年間の心温まるご協力、ご支援を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。また、保護者の皆さまには、多大なるご理解とご協力を賜り、誠に有難うございました。教職員を代表して、心から感謝申し上げます。卒業生の保護者の皆様、長い間大変お世話になりました。素晴らしいお子様でした！お元気で、ご自愛専一に、ご活躍下さい。そして、在校生の保護者の皆様、来年度もまた心強いお支えを賜ります様、よろしく願い申し上げます。私自身、掛け替えのない宝の四年のときでした。

この間のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。